

## —「守破離」の教えを胸に刻んで—

組織再建口腔外科学分野教授 小林 正 治

2019年1月27日、組織再建口腔外科学分野前教授であられた齊藤力先生がご逝去されました。

昨夏から闘病されていたことは伺っていましたが、東京歯科大学水道橋病院では客員教授としてこれまで通り顎変形症の手術を担当されており、2018年12月14日には新潟大学全学教養講義「顔」の授業をされ、年末にも電話でお元気そうな声を聴いていたものですから、実際こんなに早く訃報を耳にするとは思ってありませんでした。言葉にならない寂しさを覚えます。

齊藤力先生は、2001年11月に東京歯科大学を退職して、新潟大学大学院組織再建口腔外科学分野教授に就任されました。また、2007年4月より1期3年にわたり、新潟大学医歯学総合病院歯科統括副病院長に就任し、新潟大学評議員を務められ、2013年3月の定年退職までの約12年間新潟大学の中核にあって、大学の管理・運営に尽くしたことにより、2013年4月に新潟大学名誉教授の称号が授与されました。また、母校である東京歯科大学の客員教授に2013年4月に就任され、後進の指導に当たっておられました。

新潟大学在任中には、歯科医師国家試験委員会の幹事委員として2007年より6年間にわたりご尽力され、2009年度に副試験委員長、2010年度に試験委員長、2012-2013年に歯科医師国家試験出題基準改定部会部会長代理を務められました。また、2008年より医道審議会専門委員（歯科医師分科会）を3期6年、2009年より日本学術振興会科

学研究費委員会専門委員を3期務め、文部科学省ならびに厚生労働省にも大きく貢献されました。さらに、日本顎変形症学会理事長を2004年より8年間務められ、顎変形症診療ガイドラインの策定や全国規模での実態調査など、さまざまな事業を成し遂げられました。他にも、日本口腔外科学会をはじめ歯学ならびに医学に関する多くの学会に所属し、学術の発展に貢献されました。

齊藤先生の新潟大学における最終講義のテーマは「守破離」でありました。これは、茶道や武道において創造的な過程のベースとなっている思想であり、師匠の型を「守る」ことから修業が始まり、既存の型を「破る」ことで自分に合った型を作り、そして型から「離れ」て自在になることができるというお話で、齊藤先生の口腔外科医としての信念を伝える、素晴らしい最終講義でありました。われわれも、この「守破離」の教えを忘れることなく精進し、後進にも伝えてまいりたいと思います。

2月6日に前夜式が、7日に告別式が、齊藤先生の生前のご意思に従って無教会主義キリスト教式で執り行われ、式場にはとても多くの方々が集られました。これは、齊藤先生が素晴らしい人生を歩んでこられたことを、何よりも証明しているものと思います。

齊藤先生の間のお導きに心より感謝し、安らかに永遠の眠りにつかれます事をお祈りいたします。